




水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成 20 年 5 月 16 日に開催した「第 4 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横須賀・三浦地域フォーラム）」の内容は次のとおりでした。

名 称	第 4 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横須賀・三浦地域フォーラム）	
	構成員	高橋弘二、田倉一由
開催日時	平成 20 年 5 月 16 日（金） 18:30～20:30	
開催場所	ヴェルクよこすか ホール	
出席者	金澤史男（※1）、天内康夫、倉橋満知子、木平勇吉、坂本勝津雄（※2）、高橋二三代、古米弘明（※3）、牧島信一、真覚邦彦 ※1 主催者あいさつ、※2 パネリスト、※3 コーディネーター	
参加者	74名	
報告者	高橋弘二	
内 容	<p>1. 主催者あいさつ 金澤座長</p> <p>○県民フォーラムの目的のひとつは、各地域の方々から水源環境保全・再生に向けた各地域独自の御意見を寄せていただくことである。</p> <p>○フォーラムでご提出いただいた意見は、県民会議からの意見として知事に伝える。昨年度 3 回開催した分の意見は、昨日（5 月 15 日）に知事に提出した。本日も皆様からの積極的な御意見を期待したい。</p>  <p style="text-align: right;">金澤座長</p> <p>2. 地元市長あいさつ（代理） 杉本横須賀市副市長</p> <p>○横須賀には大きな川や湖がなく、唯一の水源は湧き水の走水だが、使用量は全体の 0.5%に過ぎず、水源は相模川・酒匂川に依存せざるを得ない。また、安定給水のため、宮ヶ瀬ダム建設にも積極的に参加し、水量の確保に務めてきた。</p> <p>○現在、水源となるダム・河川の流域において、山林の荒廃や生活排水対策の遅れによる水質悪化が深刻な問題となっている。</p> <p>○将来にわたり良質な水を安定的に確保・維持していくために、何ができるのか、何をすべきかを真剣に向き合って議論し、早期に対策に移すことが求められている。</p>  <p style="text-align: right;">杉本副市長</p> <p>3. 水源環境保全・再生施策に関する説明 星崎水源環境保全担当課長</p> <p>○昨年度は、補正予算後で約 33 億 7 千万円、今年度は約 42 億円 6 千万円の総事業費となっている。事業の進み具合については、数字だけでなく地図情報として公表できるようにしていきたい。</p> <p>○県民会議には 2 つの専門委員会と 3 つのチームがある。「市民事業等審査専門委員会」では、「市民事業等への支援制度」を検討し、今年度から補助制度がスタートした。「施策調査専門委員会」では、施策の進捗や事業効果を把握するために必要な方法などを検討し、その意見に従ったモニタリング調査等を行っている。「事業モニターチーム」は、事業が行われている現場に足を運び、その状況を調査・検証するもので、「コミュニケーションチーム」と連携し、フォーラムやニュースレターなどを通じ、結果を県民の皆様へ報告していく。</p> <p>4. 横須賀の水道の現況と水源について 横須賀市上下水道局施設部浄水課 村田上席主査</p> <p>○横須賀水道は走水源地を発祥とし、今年で給水開始 100 周年を迎える。</p> <p>○現在、横須賀市の水源系統は走水・半原・有馬・小雀・酒匂川・宮ヶ瀬の 6 系統となっており、相模川水系・酒匂川水系で 99%以上を占めている。</p> <p>○県内の水道事業体と共同し、水源域を良好に保つために水質の監視や汚濁防止、水質事故対策のほか、公的機関・農協等への河川管理の徹底や農薬の適正使用を求めるなどの活動を行い、安全で良質な水の提供に努めている。</p>  <p style="text-align: right;">村田上席主査</p>	

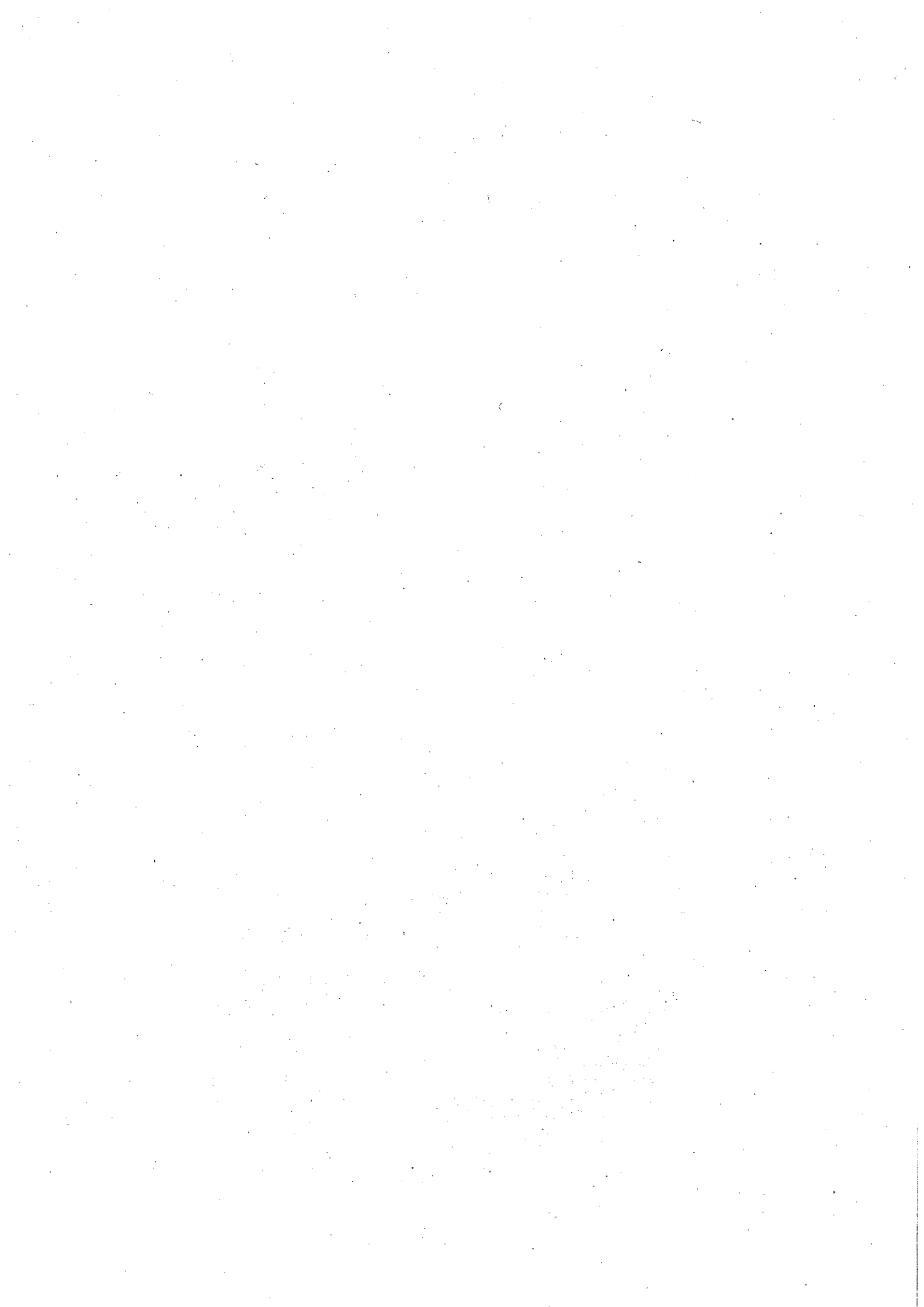
<p>内 容 (続き)</p>	<p>5. 事例報告、パネルディスカッション・フロア討論</p> <p>コーディネーター 東京大学大学院工学系研究科教授 古 米 弘 明 パネ リ ス ト 里の案内人 坂 本 勝津雄 " 桂川・相模川流域協議会幹事 宮 野 貴 " NPO法人環境ファミリー葉山理事長 安 藤 忠 雄</p> <p>各パネリストからの自己紹介を含めた事例報告に引き続き、会場からの質問・意見等も踏まえ、パネルディスカッション・フロア討論を行った。</p> <p>(坂本氏) 実感として今、里山そのものが荒れている。原因として、以前は里山に入り、それを生活の糧としていたが、石油に押されて燃料としての価値が低下したことが挙げられる。また、山を持っている方が高齢化したこと、業者にも限りがあることなども原因となっている。 是非、現場に来ていただいて実際の状況を知っていただきたい。命をバトンタッチしていくことが私たちの使命である。</p> <p>(宮野氏) 下水道によりBODは9割以上とれるが、窒素やリンは活性汚泥法では半分くらいしかとれず、相模湖や津久井湖の富栄養化はなかなか防げない。 窒素の循環では、下流域の排気ガスや工場排煙が森林を通じて上流に運ばれている。解決のためには下流域の影響が上流域に出ていることを知っていただき、社会的な上下流の分断を解消する必要がある。</p> <p>(安藤氏) 水源環境保全・再生のためには、林業が生業として成立することが必要であり、長期的な視野が求められる。山・森が生み出す価値を高める政策により、林業が結果として成立するような誘導ができないか考えていただきたい。森林をバイオマスとして捉えるインフラ整備や山・川・海を一体として考えた政策が必要である。</p> <p>(古米委員) 都市住民と水源地域の住民が、共通認識を持つ必要がある。都市に住む方に自分が飲んでいる水の水源を知っていただくことが、水源の状況を知っていただくきっかけとなる。 県や県民会議が税の使われ方を積極的に情報発信し、同時に、県民の方が疑問に思っていることを積極的に言っていただくことで、行政・活動団体・県民がお互いに目標に向かって進んでいくという気持ちを深めることができる。</p> <div data-bbox="1161 622 1465 846" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">パネリスト (坂本委員・宮野氏・安藤氏)</p> <div data-bbox="1168 1149 1465 1373" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">コーディネーター (古米委員)</p>
---------------------	---

第4回県民フォーラム準備委員の感想

<p>高橋 弘二</p>	<p>横須賀三浦地域を代表して横須賀市の水道の現状説明(村田氏)があり、続いて水源涵養林、相模川上流域の水質、ゴミ問題、上下流交流の必要性など(坂本、宮野氏)の報告、地元安藤氏からは飲料水源だけでなく河川水源流域の緑の荒廃(葉山)についての問題提起があり、古米コーディネーターが簡潔に纏められた。 参加者の話では、ちょっと参加者が少なかったこと、パネルディスカッションの時間が短かったことが気になったが、水源域の現状がわかり内容的には大変よかったとの感想が多かった。パネルディスカッションの時間は、もう少し長くした方がいいのでは。参加者が少ないのは、三浦半島の地理的(交通網)な問題もあると思われる。</p>
<p>田倉 一由</p>	<p>プログラムの構成が秀逸であり、また出演された方々が地域の特色を出し、個性的で魅力が横溢した事例報告を興味深く聞かせて頂きました。パネリストの方々の発言内容は、それぞれ持ち味を出し、具体的提案と提言が聞けて大変有意義でありました。 古米先生は、語り口がさわやかで、分かりやすく、本日のフロアの一般参加者は一緒に参加しているという一体感を感じたのではないかと、思います。 県のプレゼンテーションは絵画的で、胸に響くものが感じられなかったことに不満が残りました。次回の県民フォーラムに向けて「誰に、何を、どう訴えるか」について再検討して頂ければ幸いです。</p>

第4回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横須賀・三浦地域フォーラム） 意見集約表

番号	項目	内容
1	の 県 運 民 営 会 議 等 関 連 ・ 県 民 フ ォ ー ラ ム	パワーポイントでの説明について、資料に沿った説明があったが、保全・再生の必要性の説明が良く伝わらなかった感がある。
2		大変興味深く拝聴させて頂きました。もっと多くの方が、このフォーラムに参加してくれればと思いました。
3		次世代である子供向けのフォーラムを企画してほしい。
4		パネルディスカッションは、フロアからの意見交換ができると、さらに活発なものとなると感じました。 ありがとうございます。
5		会場での取組ですが、手話の方にライトをあてるか、明るくして見やすいようにしてほしい。
6	情 報 提 供 ・ 啓 発 関 連	【税の使われ方について】 スタートして1年経ちました。どの辺りの山林が良い方向に変化しているのか、具体的に目に見える改善地はどこにあるのか、教えて欲しいと思います。 納税者としては否応もなく納めておりますので、わずかであるが参加している共同意識を持ちたいです。
7		水源の森林地域から離れたエリアの人にこそもっと現状を理解してもらうことが必要だと強く感じました。
8		水源環境の保全の大切さを再認識しました。同時に、広く市民に知らせていく必要を痛感しました。
9		税の使われ方を情報発信(→HPでどこの森でどのように、というように具体的に詳しく)して、県民にわかるようにして欲しい。 他の税よりは、OPENにする姿勢が大いに感じられるのは評価します。
10		使われている税の広報。
11	等 水 関 質 連 保 全	「下流域の影響が上流にも出ている」というのはどういうことか。逆流があるという意味か。
12	県 外 対 策	山梨県側の水源地域の浄化槽への補助はあるのでしょうか。
13	そ の 他	不法投棄の撤去について、イタチごっこだと思いますが、対策は取っていらっしゃるのでしょうか。(横須賀市も不法投棄問題では、悩んでいます。) ボランティアの方々が、定期的に撤去作業などを行っていらっしゃるのでしょうか。
14	14	【都市住民が指向する新しいライフスタイルについて】 ①里山で、土日・休日(夏休み・冬休み・連休)を楽しむ人々の動向について、将来拡大の方向にあるか否か。 ②より魅力を感じてもらおう工夫について、更に次なる里の案内人の構想・ビジョンについて話していただければ幸いです。 ③林業とのかかわりを里の案内人としてどう構想されますでしょうか。
15		【丹沢のブナ林について】 立ち枯れ対策は？ 立ち枯れの主原因は酸性雨だと聞く。この酸性雨の原因は中国の大気汚染だという。とするとすぐにはこの状況は改善しないと考えられる。 この酸性雨への対策は？ブナ林で大丈夫なのだろうか？
16		小学校・中学校の体験学習に取り入れてほしい。
17		山梨県側水源地での宿泊体験ツアーを希望します。



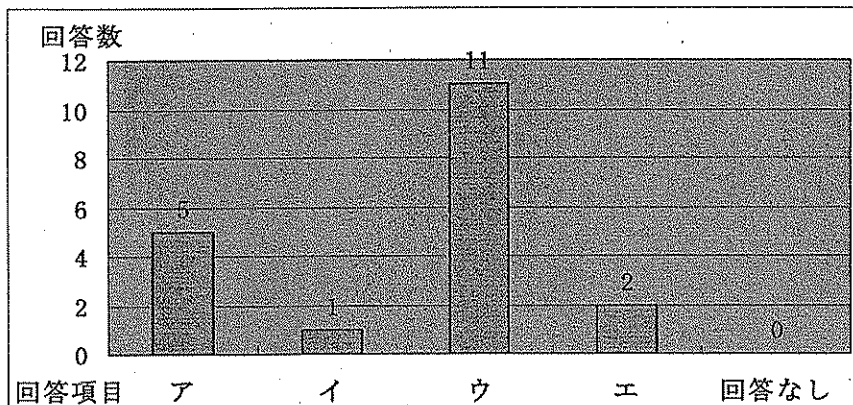
第4回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
 (横須賀・三浦地域フォーラム) アンケート集計結果

今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

- 回収したアンケート…19枚
- 今後、水源環境保全・再生に関する情報提供を希望する人数…8名

Q1 本日のフォーラムのことをどのように知りましたか。

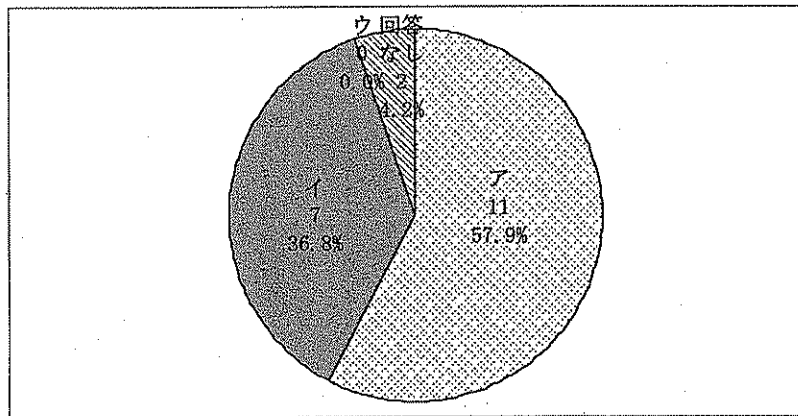
- ア 公共機関での配布物
- イ 県のホームページ
- ウ 所属する団体を通じて
- エ その他



エ その他の主な内容
 ・ パネラーから

Q2-1 今回のフォーラムはいかがでしたか。

- ア 良かった
- イ 普通
- ウ 改善が必要

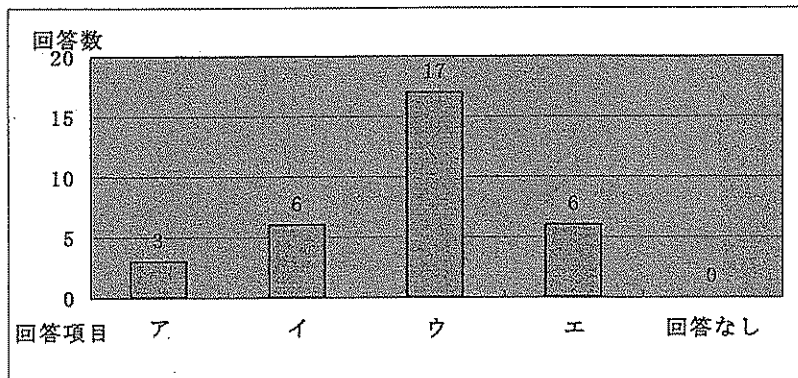


アの主な理由
 ・ 3名のパネリストがそれぞれの主張・意見を具体的かつ独自に展開したため。
 ・ 人選が大変良かった
 ・ 地域で活動されている方の生の声が聞けてよかった。

…etc

Q2-2 今回のフォーラムで興味深かったものはありましたか。(複数回答可)

- ア 施策に関する説明
- イ 横須賀の水道の現況と水源
- ウ パネリストからの報告
- エ パネルディスカッション・フロア討論



イの主な理由
 ・ 地元横須賀の水の供給実態の説明が具体的に有意義だった。

ウの主な理由
 ・ 各人が地域での活動を通じて提言をしてきていたから。

…etc

第4回 (横須賀・三浦地域フォーラム)

水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム

～水で結ばれた都市地域と水源地域の上下流連携について、一緒に考えてみませんか～

日時：平成20年5月16日(金) 18:30～20:30

場所：ヴェルクよこすか ホール(横須賀市日の出町1-5)

～ プログラム ～

18:00 ● 開場

18:30 ● 開会

● 主催者あいさつ

水源環境保全・再生かながわ県民会議座長 金澤 史男

● 地元市長あいさつ

横須賀市長 蒲谷 亮一

※代理：横須賀市副市長 杉本 俊一

18:40 ● 水源環境保全・再生施策に関する説明

神奈川県政策部水源環境保全担当課長 星崎 雅司

18:55 ● 横須賀の水道の現況と水源について

横須賀市上下水道局施設部浄水課上席主査 村田 省平

19:15 ● パネルディスカッション及びフロア討論

各パネリストからの活動事例報告を行ったのち、水で結ばれた都市地域と水源地域の上下流連携等について、皆様の御意見を基に議論を行います。

○ コーディネーター

古米 弘明 (東京大学大学院工学系研究科教授)

○ パネリスト

坂本 勝津雄 (里の案内人)

宮野 貴 (桂川・相模川流域協議会幹事)

安藤 忠雄 (NPO法人環境ファミリー葉山理事長)

20:30 ● 閉会



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
しずくちゃん

出演者を紹介します。

しずくちゃん



★コーディネーター★

東京大学大学院工学系研究科教授 ふるまい ひろあき 古米 弘明

1956年岡山県生まれ。工学博士。専門分野は、水環境保全、都市雨水管理、水質汚濁制御など。

日本水環境学会（理事）、水文・水資源学会（理事）、土木学会、日本水道協会、日本下水道協会などの学会に所属するとともに、本県の「今後の水道事業のあり方を考える懇話会」、「水源環境保全・再生かながわ県民会議」などの委員を務めている。

主な著書は、『河川の水質と生態系』（技報堂出版、2007、分担執筆）、『河川と栄養塩類管理に向けての提言』（技報堂出版、2005、分担執筆）、『流域マネジメント—新しい戦略のために』（技報堂出版、2002、分担執筆）。

★パネリスト★

里の案内人 さかもと かつお 坂本 勝津雄

宮ヶ瀬ダム周辺の鳥屋地区薪ストーブの会会長として、里山の整備等を行うとともに、上下流交流を推進するため、水源地域の「里の案内人」として、宮ヶ瀬ダム周辺を活動拠点としたエコツアーや炭焼き体験など里山への関心を高める企画を実施している。

また、鳥居原ふれあい館において、上下流交流企画の1つとして陶芸の指導も行っている。2007年4月から「水源環境保全・再生かながわ県民会議」委員を務める。

桂川・相模川流域協議会幹事 みやの たかし 宮野 貴

山梨県上野原市出身・在住。桂川・相模川流域協議会幹事として流域内の環境調査・保全活動、上下流交流などを推進している。

2006年、向上高校生物部と協働した「タイワンシジミ調査」にて『川の日ワークショップ』準グランプリ受賞。

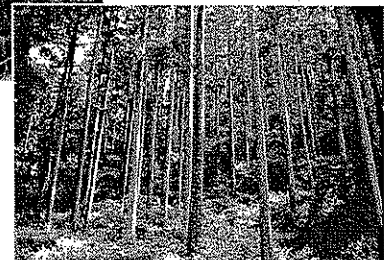
建設コンサルタントの（株）アイ・エヌ・エー勤務。専門は、親水公園等の計画・設計、流域内外の住民参加・連携支援、自然災害危機管理計画・防災訓練プロデュース。技術士（建設部門）、防災士。

NPO法人環境ファミリー葉山理事長 あんどう ただお 安藤 忠雄

1943年東京都生まれ。合成樹脂加工メーカーにおいて、社会資本となる合成樹脂製の給排水管、ガス管、電気通信管の製造、研究、市場開発を担当。その中で工場のISO9000、ISO14000に関する管理責任者を務める。

葉山町の環境審議会に公募委員として参加の他、国内外の先進的な環境行政の視察調査を行う。2006年1月特定非営利活動法人「環境ファミリー葉山」の理事長に就任。その他「環境カウンセラー」、「神奈川県地球温暖化防止推進員」、「省エネ普及指導員」、「エコ検定エコ・ピープル」などを務める。葉山町在住。

荒廃が進む人工林



適切に管理された人工林

【問い合わせ先】

事務局（神奈川県政策部土地水資源対策課）
住所 〒231-8588 横浜市中区日本大通1
電話 045(210)3106 FAX 045(210)8820

◇関連ホームページ

かながわの水源環境の保全・再生をめざして
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/01/0104/suigenkankyo/index.htm>